第３学年国語科「組み立てを考えて書こう　ーすがたをかえる大豆、食べ物はかせになろうー」単元構想図（総時数 18時間）

本単元で必要とされる既習の基礎的・基本的な知識・技能及び考え方

（３年）

「ありの行列」
① 文の構造〔はじめ（問い）－中（答えを見付ける過程）－終わり（答え）〕を読み取る。
② 中心となる語句や文、内容のまとまりに注意しながら書かれている事柄を読み取る。
③ 結論部分から筆者のものの見方、考え方を読み取る。
④ 段落（形式段落）の役割を理解する。
⑤ 接続語（時間や順序を表す言葉、結論を述べるときの言葉）の役割を理解する。

「おもしろいもの、見つけた」
⑥ 知らせたいことを収集する。
⑦ 段落の役割を理解し、事柄ごとに段落に分けて書く。
⑧ 文章全体の構成を考え、事柄の順序を考えて書く。
⑨ 接続語を適切に使って書く。

【指導計画】

時	主な学習活動・内容	基礎的・基本的な知識・技能及び考え方の活用		活用を促進するための手だて
1	本単元の見通しをもつ。 言 全文を読み、学習計画を話し合う。	②	全文（「すがたをかえる大豆」「食べ物はかせになろう」）の大まかな内容をつかむ。	国分牧衛さんの文章から書き方を学ぶという目的意識をもたせるために、単元の後半に、「食べ物研究発表会」で一人ひとりが「食べ物はかせ」として書いた説明文を発表する場があることを知らせる。
2	「すがたをかえる大豆」の中にどんな加工品が取り上げられているのかを読み取り、「すがたをかえる○○」という題名で文章を書くという見通しをもつ。 A 形式段落 B 中心となる語句や文 言 加工品の種類について話し合う。	④ ⑥ ⑦	形式段落の役割を想起し、教材文がいくつの段落で構成されているのかを読み取る。	中心語句に着目させるために、加工品に印を付けさせる。 学習意欲を喚起するために、図書資料を教室に置き、大豆のようにすがたをかえる食べ物について調べていくことを伝える。
3 4 5	形式段落ごとに、大豆をおいしく食べる工夫と食品名を読み取り、表に整理する。 C 小見出し 言 形式段落ごとに書かれている事柄の中心を読み取り、小見出しを書く。	A B	「食品名」「おいしく食べるくふう」「手を加えるときの言葉」などの中心となる語句や文に着目しながら、段落ごとに書かれている事柄の中心を読み取る。	「くふう（作り方）」ごとに段落が分けられていることに気付かせるために、納豆、味噌、しょうゆがなぜ同じ段落に述べられているのかを考えさせる。 手を加える手順を正確に理解できるように、「手を加えるときの言葉」について意味を調べさせる。
6	「はじめ」「中」「終わり」の分け方を考える活動を通して、大きなまとまりを読み取る。 D 接続語（「このように」） E 文の構造（「はじめ」－「中」－「終わり」） 言 分け方とそう考えた理由について叙述を根拠に話し合う。	⑤ ⑧ ⑨ A	「はじめ」「中」「終わり」という説明文の構造、それぞれの段落の役割を読み取る。	三段構造やそれぞれの段落の役割を考えさせるために、「ありの行列」の文の構造と比較させたり接続語（このように）に着目させたりする。 自分の文章の中で、まずは、「中」の部分の情報を収集するという見通しをもたせる。
7	文章にまとめるまでの学習の流れをつかみ、調べたい食べ物を決める。 言 図書資料を読み、目的に沿った情報を選択する。	⑥ B	食べ物のすがたの変え方に着目し、図書資料から目的に沿って情報を選択する。	「すがたをかえる大豆」のように「中」の形式段落を構成するためには、すがたの変え方がいくつかあるもの、おもしろいものを選ぶ必要があることをおさえる。
8 9	「中」のための情報を収集する。 言 目的に沿った情報を読み取り、カードに書く。	A B E	「すがたをかえる大豆」の中心となる語句や文を想起し、図書資料から情報を収集する。	後の学習で、段落を構成しやすくするために、食品ごとにカードを変えて書かせる。
10 11	収集した情報を見直す。 言 情報の中で大事な部分を取り出し、整理して書く。	B	収集した情報の中で「手を加えるときの言葉」に着目しながら、すがたの変え方を読み取る。	「手を加えるときの言葉」に着目しながら、情報を見直せるよう、ワークシートを工夫する。 中心となる語句を読み取る手掛かりとなるよう、教材文にはない「手を加えるときの言葉」を新たに見つけたときには、その都度掲示し、共有化を図る。
12 13	「すがたをかえる大豆」で筆者が伝えたかったことを読み取り、「はじめ」と「終わり」を書く。 F 段落相互の関係 G 筆者の考え 言 「はじめ」と「終わり」の役割とつながりを考えて、「自分が読み手に伝えたいこと」を意識して文章を書く。	③ A D E	「はじめ」と「終わり」の役割や結論部分での接続語の使い方を想起し、自分の考えが伝わるような文章を書く。 「はじめ」と「終わり」のつながりを意識して文章を書く。	「すがたをかえる大豆」の「はじめ」と「終わり」に書かれている筆者の思いや段落相互のつながり、接続語「このように」の使い方を読み取らせることで、自分の文章に活用できるようにさせる。
14 本 時	**「すがたをかえる大豆」の「中」の部分の筆者の配列の工夫を読み取り、集めた情報を意図的に並べる。 D 接続語（順序を表す言葉） 言 配列にこめられた筆者の意図を話し合う。**	**B D F G**	**教材文を参考に段落相互の関係を考え、読み手に自分の考えが伝わるような文章を構成する。**	**「すがたをかえる大豆」の「中」の事例の配列の工夫に着目させ、筆者の意図や段落相互の関係に気付かせることで、自分の文章に活用できるようにさせる。**
15 16	「中」のために集めた情報を段落ごとに短冊型原稿用紙に書く。 言 「中」の構成を考えて、集めた情報を文章として書く。	A D E G	内容のまとまりや事柄の順序、接続語、自分の伝えたいことを意識して「中」を構成する。	前時の学習を想起させ、読み手に自分の思いが伝わるような文章を構成させる。 段落のまとまりを意識させるために、形式段落ごとに分けて短冊型原稿用紙に書かせる。
17	文章全体を清書する。 言 段落に気を付けながら、文章を清書する。	DE FG	文全体の構造を意識して文章を書く。	文全体の構造（はじめ、中、終わり）やそれぞれのつながりに気を付けながら清書するよう促す。
18	「食べ物研究発表会」を開く。 H 文章を評価する力 言 互いに書いた文章を読み合い、評価し合う。	B E F G	中心となる語句や文に着目し、書かれている事柄の内容や筆者の考えをつかむ。 学習したことを想起し、文章の構成の仕方の工夫も読み取る。	書かれている事柄だけでなく、文章構成の工夫にも着目できるよう、評価カードを工夫し、充実感や満足感が味わえるようにする。